



## 第2回

# 吉崎御坊（願慶寺・吉崎寺）

（福井県あわら市吉崎）

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回はあわら市の吉崎御坊<sup>よしざきごぼう</sup>を紹介します。文明3年（1471）、本願寺八世蓮如は北陸布教の拠点として吉崎に坊舎を建てました。2年後には多屋と呼ばれる宿坊が100軒以上建ち並び寺内町を形成したが、急速な門徒拡大は他宗派寺院や越前守護朝倉氏、加賀守護富樫氏の警戒や反発を招いたため、抗争を避けて文明7年蓮如は吉崎を退去しています。

吉崎山（御山、千歳山とも呼ばれる）<sup>ちとせやま</sup> 山上の道場は蓮如上人が退去後も吉崎に残った弟子たちにより護持されていましたが、永正3年（1506）の九頭竜川の戦い後、朝倉氏の仕置によって越前国内の一向宗寺院は国外追放となり、吉崎道場も破却されたと伝えられます。

今年7月の県外視察研修では吉崎御坊を訪れました。山上には上りませんが、願慶寺（真宗大谷派）と吉崎寺（本願寺派）でご住職から吉崎御坊の話をお聞きしました。願慶寺は現在、真宗大谷派吉崎別院（東別院）と一続きの境内の一角に本堂が建っています。願慶寺の所有だった土地建物は江戸中期に別院制が始まるにあたり建物ごと土地を本山に召し上げられたそうです。現在地に屋敷のあった和田重兵衛が蓮如上人の弟子となり<sup>ゆうねんぼう</sup> 祐念坊と称したのが願慶寺の始まりで、その屋敷地が願慶寺と吉崎東別院の両境内を囲う一画として現在に継承されています。また同寺で頒布している吉崎御坊復元図は、多くの多屋が建ち並び北潟湖や大聖寺川河口にぐるりと囲まれた様子が描かれ、往時の吉崎の賑わいと堅固さを想像できました。次に訪れた吉崎寺は、地元の名主大家彦左衛門が蓮如上人の弟子となり<sup>きょうもんぼう</sup> 慶聞坊と称したのが始まりで、本堂を建てるために自らが所有していた吉崎山一万坪を蓮如上人に寄進したことと、蓮如上人が吉崎を退去するときに慶聞坊自らお供して小浜まで舟でお送りしたことが同寺の売りであるようです。吉崎御坊といえば「嫁威し肉附きの面」<sup>よめおど</sup> が有名です。吉崎に足繁く通う嫁に嫉妬した姑が、吉崎への道中で鬼の面を被って嫁を脅かしたものの嫁は念仏を唱えながら通り過ぎたので、姑は家に帰り鬼の面を外そうとしたが張り付いてどうしても取れず、帰宅した嫁の勧めで南無阿弥陀仏と唱えると自然と面が外れ、姑も一緒に吉崎に通うようになった、めでたしという法話です。信仰の象徴としてこの鬼の面は願慶寺や吉崎寺、吉崎東別院など吉崎の各寺院それぞれに伝えられています。

吉崎御坊は浄土真宗門徒には知られたゆかりの地ですが、今は教科書には記載されず知らない人が増えたそうで、訪れる人が少なくなっていた観光地は今春新しく道の駅が開業して地域の賑わいが戻り始めています。



吉崎御坊跡 蓮如上人お腰掛けの石



願慶寺（蓮如上人の弟子祐念坊開基）



吉崎寺（蓮如上人の弟子慶聞坊開基）

参考資料  
吉崎御坊跡現地  
案内板

願慶寺パンフレット

吉崎寺パンフレット

他